

報道関係者各位



2024.8  
福田美術館



## 開館5周年記念 「京都の嵐山に舞い降りた奇跡!! 伊藤若冲の激レアな巻物が世界初公開されるってマジ?!」

2019年10月に開館した福田美術館は、今秋で開館5周年を迎えます。当館は開館以来、江戸時代から現代までの魅力的な美術品の収集にも力を入れてきました。その中でもひとときわ注目を集めているのが伊藤若冲（1716-1800）の《果蔬図巻》（かそずかん）です。この作品は長年ヨーロッパ在住の個人が所蔵していましたが、昨年日本へ里帰りし、福田コレクションの仲間入りを果たしました。

本展では、今から約240年前に70代の若冲が描いた《果蔬図巻》を、彼が生まれ育った京都で、世界で初めて一般公開します。さらに今年5月に福田コレクションに加わったばかりの、若冲と大典が舟で京から大阪へ下る間に見た風景を版画で表現した巻物《乗興舟》も公開します。

また、2019年春、当館が開館する直前に発見された若冲最初期の作品《燕に双鶏図》をはじめとする初期から晩年までの優品およそ30点を一堂に展示するとともに、若冲が影響を受けた中国人画家・沈南蘋（しんなんぴん）やその弟子の熊斐（ゆうひ）、さらには、同時期に京・大阪で活躍した画家・円山応挙や曾我蕭白（そがしょうはく）にも焦点を当てます。

若冲愛好家はもちろん、美術に詳しくない方にとっても、若冲の魅力を存分に感じ取れる特別な機会です。

会期：2024年10月12日（土）～2025年1月19日（日）

【主催】福田美術館

【後援】京都府、京都市、京都市教育委員会

【会場】福田美術館

【作品点数】合計：51点

※《鶏図押絵貼屏風》以外は全て通期展示

若冲の画業を初期から順に辿る、若冲ファン垂涎の名品を一挙展示

江戸時代中期の画家、伊藤若冲（1716-1800）は、京都の錦市場にある青物問屋「枳屋」の長男として生まれ、23歳の時、父が亡くなったことをきっかけに家業を継ぎました。仕事のかたわら絵を描いていましたが、40歳頃、自身が真に追求したい絵画の道に専念するため隠居を決意し、家業を弟に譲ります。

若冲は、長崎に滞在した中国人の画家・沈南蘋や、その弟子などの、当時最新の絵画を学びながら画技を極めていきます。42歳から約10年かけて完成させた《動植綵絵》はその集大成といえるでしょう。また、水墨画の愛らしい動物や禅宗で人気のあった達磨などを、若冲独自の感覚で描いた水墨画も見逃せません。

ここでは、30代初めに描いた最初期の作品《燕に双鶏図》や「筋目描き」という技法を使った《芦葉達磨図》など、初期から晩年までの作品を展示します。同時に、若冲が影響を受けた中国人画家の作品や黄檗宗（おうばくしゅう）の僧侶による作品なども展示し、若冲作品の背景に迫ります。



伊藤若冲《燕に双鶏図》  
(18世紀)  
福田美術館蔵



伊藤若冲《鶏図押絵貼屏風》左隻部分  
(18世紀)  
福田美術館蔵



熊斐《松竹梅鶴亀図》左幅  
(18世紀)  
福田美術館蔵

ついに世界初公開！極彩色の「激レア」な巻物、果蔬図巻



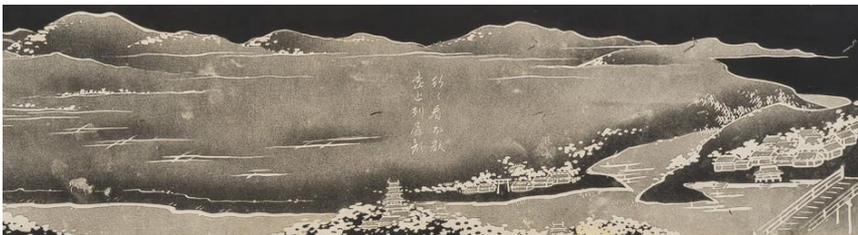
伊藤若冲《果蔬図巻》（1790年以前）（部分）福田美術館蔵



長さ約3m！描かれているのは50数種の色鮮やかな果物・野菜

若冲筆《果蔬図巻》は約3メートルの絹地に様々な野菜や果物が描かれ、巻物に仕立てられた作品です。巻末には、相国寺の僧侶で若冲が40～50代の頃に親しく交流した梅莊頭常（ばいそうけんじょう） / （大典）が書いた跋文（ばつぶん）が付けられており、若冲の絵を絶賛するとともに、本作が浪華（現・大阪）の森玄郷（もりげんきょう）という人物から依頼されたものであることなどを伝えています。第2章では、この大典の跋文を含む《果蔬図巻》を世界で初めて一般公開すると共に、若冲と大典が京から大阪へ下るために乗った舟からの風景を版画で表現した《乗興舟》（じょうきょうしゅう）と、若冲が70代から85歳で亡くなるまでの作品を併せて紹介します。また大阪で活躍し、若冲と近い画風を持つ黄檗宗の僧侶・鶴亭（かくてい）や葛蛇玉（かつじゃぎょく）などによる個性溢れる作品も展示します。鶴亭浄光筆《蕃椒図》、《梅・竹図押絵貼屏風》も当館初公開の作品です。

若冲と大典の親交が伺える《乗興舟》が新たに福田コレクションに！



伊藤若冲 下絵  
梅莊頭常 賛  
《乗興舟》  
（1767年）福田美術館蔵

《乗興舟》は幅28cm、長さ9mを越える長尺の絵巻で、若冲が50代の頃の「拓版画」の作品です。後に国宝として著名となった三十幅の大作《動植綵絵》の制作を終え、新たな境地を開こうとしていた若冲のエネルギーが感じられます。絵巻には、京都の伏見から大阪まで若冲と川下りをした淀川沿いの風景に大典の漢詩が添えられており、美しいぼかしやグラデーションも見どころです。展示室では若冲と大典が共に旅した軌跡をパネルで解説し、当時の2人の様子に思いを巡らせることができます。

京都で活躍した奇想の画家・蕭白と写生画の天才・応挙

第3章では、伊藤若冲とほぼ同時期に京都で活躍した画家、曾我蕭白（1730-1781）と円山応挙（1733-1795）に注目します。彼らは室町時代から続く狩野派の手法を学んだ後、自分の個性を頼りに思うままに自らの表現を打ち出しました。

京の商家に生まれた曾我蕭白は、室町時代の画家・曾我蛇足の系譜に連なる「蛇足軒十世」と名乗りました。荒々しい筆致や大胆な構図で知られていますが、描く対象を的確に把握する力や細密で精確な描写も見逃せません。

一方、円山応挙は丹波国亀岡の農家に生まれた画家で、それまでの形式的な描法にとらわれず、綿密な観察に基づいた「写生」をもとにした作品を描くことで人気を博しました。

独自の表現を模索し続けた2人の作品を比較しながら鑑賞するのも一興です。



曾我蕭白《柳下白馬図》（部分）  
（18世紀）福田美術館蔵



円山応挙《虎図》  
（1786年）福田美術館蔵

《果蔬図巻》の制作年について

《果蔬図巻》は新発見のリリース時、若冲の款記に描かれた通り、制作年を1791年としておりました。しかし、有識者で協議した結果、巻末の梅莊頭常の跋文に1790年12月と記載されていることや、若冲が自身の年齢よりも多く記載する例が他の作品にも見受けられるところから、少なくとも1790年より以前に描かれたものであるということとなり、現在は「1790年以前」と訂正させていただいております。

メディアの皆様には、どうぞご理解のほどよろしくお願いいたします。

## 展覧会概要

- 企画展名 開館5周年記念「京都の嵐山に舞い降りた奇跡!! 伊藤若冲の激レアな巻物が世界初公開されるってマジ?!」(略称:若冲激レア展)
- 会 期 2024年10月12日(土)~2025年1月19日(日)  
※12月3日(火)に《鶏図押絵貼屏風》の右隻、左隻を入れ替えます。
- 開館時間 10:00~17:00(最終入館 16:30)
- 休 館 ※12月3日(火)、12月30日(月)~1月1日(水)
- 主 催 福田美術館
- 後 援 京都府、京都市、京都市教育委員会
- アクセス 〒616-8385 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16  
JR山陰本線(嵯峨野線)「嵯峨嵐山駅」下車徒歩12分  
阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩11分  
嵐電(京福電鉄)「嵐山駅」下車徒歩4分
- 料 金
- | 一般・大学生        | 高校生       | 小・中学生     | その他  |
|---------------|-----------|-----------|--|
| 1,500(1,400)円 | 900(800)円 | 500(400)円 | *障がい者と介添人1名まで各900(800)円<br>*幼児無料<br>*( )内は20名以上の団体料金 |
- <嵯峨嵐山文華館両館共通券>  
一般・大学生:2,300円/高校生:1,300円/小中学生:750円/障がい者と介添人1名まで:各1,300円

### プレスリリース/広報用画像に関するお問合せ

福田美術館(共同ピーアール内)  
担当:田中真衣、樋口  
TEL:03-6264-2045  
Email:fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp

### 一般の方からのお問合せ

TEL:075-863-0606(代表) Email: [info@fukuda-art-museum.jp](mailto:info@fukuda-art-museum.jp)

# プレス用画像\_1

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。  
<https://tayori.com/f/gekirea/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



① 伊藤若冲《果蔬図巻》（1790年以前）福田美術館蔵



② 伊藤若冲《燕に双鶏図》（18世紀）福田美術館蔵



③ 伊藤若冲《果蔬図巻》（部分）（1790年以前）福田美術館蔵



④ 伊藤若冲 下絵・梅荘頭常賛《乗興舟》（1767年）福田美術館蔵



⑤ 伊藤若冲《鶏図押絵貼屏風》/右隻（1797年）福田美術館蔵\_前期展示



⑥ 伊藤若冲《鶏図押絵貼屏風》/左隻（1797年）福田美術館蔵\_後期展示



⑦ 伊藤若冲《托鉢図》（18世紀）福田美術館蔵

※全て福田美術館蔵

※《鶏図押絵貼屏風》  
 以外は全て通期展示

## プレス用画像\_2

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/gekirea/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



⑧ 鶴亭浄光《蕃椒図》  
(18世紀) 福田美術館蔵



⑨ 佚山《群鶴図》  
(18世紀) 福田美術館蔵



⑩ 曾我蕭白《柳下白馬図》  
(18世紀) 福田美術館蔵



⑪ 円山応挙《虎図》  
(1786年) 福田美術館蔵

※全て福田美術館蔵

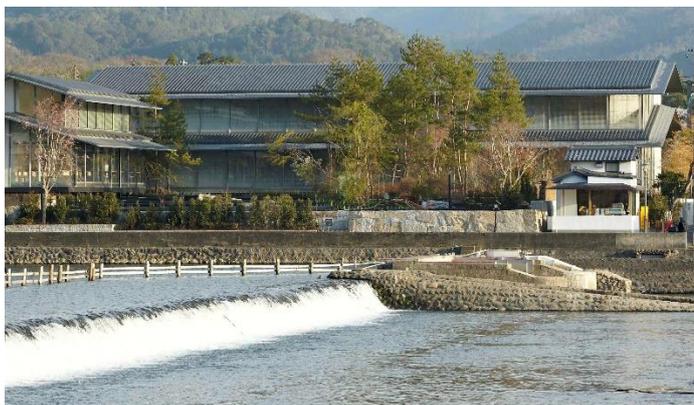
※全て通期展示

## 福田美術館について

### 美しい自然と日本美術の融和。日本文化の新たな発信拠点として

京都・嵯峨嵐山は古来歌枕でもある場所で、多くの貴族や文化人に愛され芸術家たちが優れた作品を生み出す源泉となってきました。オーナーである福田吉孝は京都に生まれ育ち、そこで事業を興し、今日まで続けてきたことに対し、地元の方々のご支援とこの地に恩返しをしたいという思いから、2019年10月、美術館の設立に至りました。今や日本国内だけでなく、世界中から多くの人々が訪れる観光地である嵐山。その中でも渡月橋を望む大堰川（桂川）沿いの景勝地に位置し、四季折々でそれぞれに変化する風景は1000年変わらず人々を魅了してきました。この美しい自然と共に日本美術の名品を愉しんでいただくことで、嵐山が世界有数の文化発信地となることを願います。

**福田美術館は2024年10月で開館5周年を迎えます。**今後も「100年続く美術館」をコンセプトに、現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へとつなぐ美術館を目指します。



### 嵐山にふさわしい、未来へむけた日本建築の形

福田美術館の建築を手掛けた安田幸一氏は、「蔵」をイメージした展示室や外の自然とのつながりを感じられる「縁側」のような廊下など、伝統的な京町家のエッセンスを踏まえつつ、これから100年のスタンダードとなるような新しい日本建築を目指しました。また、庭には大堰川に連なる水鏡のごとく嵐山を映し出す水盤が設けられており、渡月橋が最も美しく一望できるカフェからは最高の眺めを味わうことができます。

